## 4　インターンシップ，ボランティア

### （1）インターン・シップを導入している学部・学科等における，そうしたシステムの実施の適切性

現状の説明

平成８年度に設置した情報文化学科において，平成１０年度から，「メディア社会実習」という専門教育科目の３年次選択科目の中で，インターンシップを取り入れた演習・実習授業を実施している。

情報文化学科では，教育目標である「メディアを学び，メディア社会を創造できる人材育成」のもとで，小規模ながら以下のような企業，団体とのインターンシップ授業を展開している。

□平成１５年度の実績

| 実　習　先 | 期　間　（日　数） | 人　数 |
|---|---|---|
| 千葉市役所 | ８月　１日～　８日（６日間） | ２人 |
| エフエムサウンド千葉 | ８月１１日～１５日（５日間） | ５人 |
| 放送大学学園 | ８月２５日～２９日（５日間） | ５人 |
| 高千穂ネットワーク | ８月２５日～２９日（５日間） | ３人 |
| 千葉日報社 | ９月　１日～　５日（５日間） | ３人 |
| 千葉テレビ放送 | ９月　８日～１２日（５日間） | １０人 |
| ケーブルネットワーク千葉 | ９月　１日～　５日（５日間） | ５人 |

点検・評価

「現代実学主義」を提唱する本学にあって，現場での実習体験はきわめて有意義であり，大学，学生，受け入れ企業のいずれにとっても大変有益な活動である。特に，実施している情報文化学科にとって有益なのは，まさに送り出したい企業を対象に実習が行われていること，それによって学科の教育課程の検証ができていること，学生の学習意欲と就職意欲の向上につながっていることである。実施の方法，受入先企業等の開拓について引き続き検討の余地は残されているが，当初の目的は十分に達成していると評価できる。

なお，実施にあたっては，担当者間の事前事後の連絡調整，報告会，懇親会等を綿密に行うなどの努力の結果であることも評価に値する。

長所と問題点

インターンシップの活動は，学生の学習意欲と就職意欲の向上に極めて効果的である。本学情報文化学科の取り組みの特徴は，教育課程に組み込まれた正課プログラムであることである。教育課程の体系の中に組み込まれた段階的な学習の一環であることは，学生にとって，実習成果がそのまま単位化され，そのことが長所といえる点である。

問題点をあげるとすれば，授業開講のために相当の準備が必要になること，受入先企業の開拓が難しいこと，そのために多くの学生を対象にできないことなどがあげられる。仮に小規模であっても継続的に実施していくことがこれからの課題であろう。

将来の改善・改革に向けた方策

現在は，情報文化学科だけで行われているインターンシップを，他の３学科においても正課授業として取り込む方策を検討することが今後の課題である。学部全体の相当規模で行うことを前提に，他大学での実施状況調査や関連団体との交渉，学科の教育課程の再構築などを，タイミングよく一斉に検討・実施することが必要になる。

## 5　履修科目の区分

### （１）カリキュラム編成における，必修・選択の量的配分の適切性，妥当性

現状の説明

各学科では，選択科目群が多彩で幅広い分野を学ぶことが可能となっている。

点検・評価

幅広い科目群の設置は，視点を変えれば，学科の特色が曖昧になってしまって学生の学習を困難にしてしまう場合も考えられる。また，科目数の多さは，教員の負担が多くなるばかりか，学科の基本教育とは何かについての議論の必要性を放置する方向に作用してきたとも考えられる。

将来の改善・改革に向けた方策

卒業に必要な必修科目と選択科目の配分を変更して，必修科目を増やし学科の専門性を高め，学生の履修方針を明解にする必要がある。また，選択科目群を大幅に減らす方向で検討している。平成１７年度カリキュラム改正では，４時間目までの時間割を実現できるように，カリキュラム全体をスリムにし簡素化して，また卒業要件も単純化して学生にわかりやすい授業体系の実施を目指している。

## 6　授業形態と単位の関係

### （１）各授業科目の特徴・内容や履修形態との関係における，その各々の授業科目の単位計算方法の妥当性

現状の説明

授業形態を，講義を主たる内容とする講義科目と演習・実技指導を主たる内容とする演習科目に分けて単位計算を行っている。講義科目には，半期科目で２単位，通年科目で４単位を単位とし，演習科目には半期で１単位，通年で２単位としている。